

- 問1 13世紀後半、モンゴル帝国（元）が二度にわたって日本へ侵攻してきた「元寇」の際、鎌倉幕府の最高責任者として、九州の御家人らへ軍役の指示を出し、京都や鎌倉の警備を指揮した人物は誰ですか。（2021年 福島県公立入試 類似）
- フビライ・ハン
 - 北条泰時
 - 北条時宗
 - 源頼朝
- 問2 承久の乱の後、新たに任命された地頭と荘園領主との間で、土地の支配や年貢の納入を巡る紛争が急増しました。これを受け、1232年に三代執権の北条泰時が、武士社会の慣習に基づいて制定した、裁判の基準となる法典は何ですか。（2023年 広島県公立入試 類似）
- 武家諸法度
 - 公事方御定書
 - 御成敗式目
 - 十七条の憲法
- 問3 鎌倉幕府の歴史書である「吾妻鏡（あずまかがみ）」には、1221年に起こった承久の乱の際、北条政子が御家人たちを前にして行った演説の内容が記されています。この承久の乱において幕府方が勝利した結果、幕府の支配権はどのように変化しましたか。（2026年 山梨県公立入試 類似）
- 奥州藤原氏を滅ぼしたことで、それまで独立していた東北地方を幕府の直接支配下に置いた。
 - 平氏を滅ぼしたことで、源頼朝が全国に守護・地頭を設置する権利を獲得した。
 - 元（モンゴル）の侵攻を退けた後、恩賞として西国の土地を分配したことで、九州地方の支配を固めた。
 - 乱の後に朝廷側の所領を没収し、新たに地頭を任命したことで、幕府の支配が西国（西日本）にまで及んだ。
- 問4 13世紀後半、元（モンゴル帝国）が二度にわたって日本に侵攻した際、朝鮮半島で元に服属し、軍船の建造や兵力の提供を命じられた国を選びなさい。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
- 李氏朝鮮
 - 高麗
 - 百済
 - 新羅
- 問5 鎌倉時代の守護と地頭の役割の違いを説明した文として、適切なものを選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- 守護は幕府の最高役職として将軍を輔佐し、地頭は京都の警備を専門に担当した。
 - 守護は朝廷から派遣されて地方の行政を行い、地頭は幕府から派遣されて武士の裁判を行った。
 - 守護は国ごとに置かれて軍事や警察の仕事を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。
 - 守護は土地の管理や年貢の徴収を主な任務とし、地頭は国ごとに置かれて国内の武士を統制した。
- 問6 鎌倉時代後半に、生活が立ち行かなくなった武士たちを救うために出された法令の内容について、当時の状況を説明したものとして正しいものはどれですか。（2025年 鹿児島県公立入試 類似）
- 農民の年貢を免除し、その分をすべて御家人の収入とすることで、武家社会の安定を図った。
 - 領地の売買を禁止し、借金の帳消しや領地の無償返還を命じることで、御家人の基盤を立て直そうとした。
 - 外国との貿易を奨励し、得られた利益を御家人に配分することで、戦費の埋め合わせを行った。
 - 幕府がすべての土地を買い上げ、改めて御家人に平等に分配し直すことで、格差を是正しようとした。
- 問7 鎌倉時代から西日本を中心に広まった農業技術について述べた文章において、同一の農地を利用し、夏には米を、その収穫が終わった後の冬の時期には麦などの異なる作物を栽培する農業形態を何と呼びますか。（2022年 広島県公立入試 類似）
- 輪作
 - 二期作
 - 三毛作
 - 二毛作
- 問8 承久の乱が起こった背景とその後の歴史的意義についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 宮城県公立入試 類似）
- 源氏の正統が途絶えた混乱に乗じて後鳥羽上皇が倒幕を図ったが、幕府側が勝利したことで、武士の支配が西日本にも浸透する契機となった。
 - 執権の北条氏が実権を握ることに不満を持った御家人が上皇を担ぎ出して挙兵したが、幕府は敗北し鎌倉時代は終焉を迎えた。
 - 足利氏と新田氏が朝廷の権威を利用して鎌倉幕府を倒すために起こした戦いであり、この結果、建武の新政が始まった。
 - 平氏を滅ぼした後の源頼朝の権威を恐れた朝廷が兵を挙げたが、地頭の反乱により幕府が崩壊し、再び天皇中心の政治に戻った。
- 問9 鎌倉幕府が「徳政令」を出さざるを得なくなった背景として、当時の社会状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2019年 千葉県公立入試 類似）
- 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。
 - 幕府が貨幣経済を禁止しようとして、すべての支払いをコメで行うよう強制したため。
 - 朝廷が幕府に対抗して新しい法律を作ったため、御家人の忠誠心が揺らいでいたため。
 - 大規模な干ばつによって農業生産が激減し、幕府が農民の税を免除したため。
- 問10 東大寺南大門に安置されている金剛力士像の特徴と、その制作背景について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2023年 京都府公立入試 類似）
- 運慶や快慶らによって制作され、当時の武士の力強さを反映した、写実的で躍動感あふれる表現が特徴である。
 - 唐から渡来した鑑真が伝えた技法に基づき、大陸の国際色豊かな文化を反映した、均整の取れた落ち着いた姿が特徴である。
 - 聖武天皇が仏教による国家の安定を願って建立したもので、銅造の表面に金メッキを施した巨大な造形が特徴である。
 - 藤原氏の摂関政治の繁栄を背景に、寄木造の技法を用いて制作された、貴族好みの優雅で繊細な表現が特徴である。
- 問11 鎌倉時代の中期以降、多くの御家人が経済的に困窮し、先祖伝来の土地を質に入れたり売り払ったりする状況が見られるようになりました。この背景にある当時の相続の仕組みと、それが御家人に与えた影響について説明した文として、最も適切なものを選びなさい。（2017年 香川県公立入試 類似）
- 運慶や快慶らによって制作され、当時の武士の力強さを反映した、写実的で躍動感あふれる表現が特徴である。
 - 元寇の恩賞として与えられた新しい土地が、相続の際に幕府によって没収される制度があったため、御家人の領地が減少した。
 - 所領を複数の子や孫に分けて継承させる分割相続が行われた結果、代を重ねるごとに一族一人あたりの土地が細分化され、収入が減少した。
 - 土地を一人の長子のみが継承する単独相続が義務付けられたため、相続から外れた多くの子弟が耕作地を失い、浮浪化した。
- 問12 東大寺南大門の金剛力士像に見られる、写実的で躍動感あふれる彫刻様式が鎌倉時代に大きく発展した歴史的背景として、最も適切な説明を選んでください。（2026年 富山県公立入試 類似）
- 貴族の間で流行した、優美で洗練された国風文化の影響を強く受けたため
 - 新興の武士の気風に合った、素朴で力強い精神性が好まれたため
 - 鉄砲の伝来に伴い、外敵を威圧するために巨大な偶像が各地で必要とされたため
 - 宋との貿易を通じて、禅宗とともに極彩色の華麗な装飾技術が導入されたため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 北条時宗	鎌倉幕府の第8代執権であった北条時宗は、元の皇帝であるフビライ・ハンの服従要求を拒否し、文永の役・弘安の役の二度にわたる襲来に対して防衛体制を整えました。この際、幕府の権限を強め、九州に所領を持つ御家人たちに石築地（元寇防壁）の築設や警備を命じるなど、強力なリーダーシップを発揮しました。
問2	答え 3 御成敗式目	承久の乱を経て、幕府の影響力が西日本にも拡大した結果、各地で地頭（武士）と荘園領主（貴族や寺社）の権利を巡る争いが増加しました。北条泰時は、裁判を公平に行い、武士が納得できる独自の基準を作ること社会の混乱を収めようと考え、この法典を制定しました。これは日本で最初の武家法として、その後の武士の政治に大きな影響を与えました。
問3	答え 4 乱の後に朝廷側の所領を没収し、新たに地頭を任命したことで、幕府の支配が西国（西日本）にまで及んだ。	承久の乱は、後鳥羽上皇が幕府を倒そうとして兵を挙げた事件です。この時、北条政子は御家人たちに対し、初代将軍である源頼朝が与えた恩義の大きさを訴えて団結を促しました。乱に勝利した幕府は、朝廷側の貴族や武士から没収した土地に「新補地頭」を配置しました。これにより、それまで朝廷の勢力が強かった西国（西日本）においても、幕府の支配力が決定的に強まることとなりました。
問4	答え 2 高麗	朝鮮半島の高麗は、モンゴル帝国の激しい攻撃を受けて服従し、その後は元の日本侵攻に協力させられました。元寇の際には、高麗の軍隊も元軍とともに日本へ渡り、北九州などで戦いました。新羅や百済はそれ以前の時代の国家であり、李氏朝鮮は元の後の時代に建国された国家です。
問5	答え 3 守護は国ごとに置かれて軍事や警察の仕事を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。	守護と地頭は、いずれも鎌倉幕府が設置した役職ですが、その単位と役割が異なります。守護は「国（現在の都道府県に近い単位）」ごとに置かれた軍事警察官であり、地頭はより細かな「荘園・公領」といった土地の単位で置かれた管理職（徴税官）です。朝廷から派遣されたのは国司であり、守護や地頭は幕府が任命した御家人であることを区別しておく必要があります。
問6	答え 2 領地の売買を禁止し、借金の帳消しや領地の無償返還を命じることで、御家人の基盤を立て直そうとした。	当時の幕府にとって、御家人が領地を失うことは、軍役や番役を果たす能力を失うことを意味しました。そのため、失った領地を強引に取り戻させることで、御家人制度の崩壊を防ごうとしたのがこの法令の仕組みです。しかし、根本的な解決には至らず、鎌倉幕府の衰退を早める要因の一つとなりました。
問7	答え 4 二毛作	鎌倉時代には、牛馬による耕作や、刈敷・草木灰といった肥料の使用が普及したことで、土地の生産性が向上しました。これにより、同じ耕地を休ませることなく、夏と冬で異なる作物を育てる工夫が生まれました。主に夏に米、冬に麦を栽培する形態を指します。
問8	答え 1 源氏の正統が途絶えた混乱に乗じて後鳥羽上皇が倒幕を図ったが、幕府側が勝利したことで、武士の支配が西日本にも浸透する契機となった。	3代将軍の源実朝が暗殺されて源氏の将軍が途絶えたことをきっかけに、後鳥羽上皇は政権を朝廷に取り戻そうとして承久の乱を起こしました。しかし、北条政子が「頼朝の恩義」を訴えて御家人を団結させたことで幕府軍が圧倒し、結果として朝廷に対する幕府の優位が決定的になりました。この戦いの後、多くの御家人が西日本の土地の地頭に任命されたことは、全国的な武家社会の形成に大きな影響を与えました。
問9	答え 1 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人に領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。元寇の際、御家人たちは暴風雨の助けもあって元軍を撃退しましたが、自衛のための戦争であったため、幕府は御家人に与えるための新たな領土を手に入れることができませんでした。このことが御家人の困窮と幕府への不信感を招き、徳政令という強制的な借金帳消し策をとる要因となりました。
問10	答え 1 運慶や快慶らによって制作され、当時の武士の力強さを反映した、写実的で躍動感あふれる表現が特徴である。	鎌倉文化の彫刻は、それまでの平安時代の優雅で洗練された「和様」とは異なり、解剖学的に正確な筋肉表現や、衣服のなびきといった写実的（リアリズム）かつ力強い表現が主流となりました。これは幕府が置かれたことで台頭した武士の精神性を象徴しています。運慶・快慶は慶派と呼ばれる仏師集団の中心人物であり、東大寺の再建という国家的プロジェクトを通じてそのスタイルを確立しました。
問11	答え 3 所領を複数の子や孫に分けて継承させる分割相続が行われた結果、代を重ねるごとに一族一人あたりの土地が細分化され、収入が減少した。	鎌倉時代の武士社会では、子孫に所領を分けて譲る「分割相続」が一般的でした。しかし、代を重ねるごとに個々の御家人が所有する土地の面積は小さくなり、生活基盤が弱体化していききました。そこに元寇（蒙古襲来）による軍役負担や、貨幣経済の普及による支出の増大が重なったことで、御家人の窮乏は決定的なものとなりました。
問12	答え 2 新興の武士の気風に合った、素朴で力強い精神性が好まれたため	鎌倉文化は、政治の実権を握った武士の生活態度や精神を反映しています。貴族的な優雅さよりも、現実的で力強いものが好まれたため、金剛力士像のような写実的でたくましい彫刻が制作されました。これは、当時の武士の気風が反映された結果と考えられています。